

医療人類学

ACADEMIC YEAR 2014

臨床医の経験

- 疾病が完治しているのに症状が続いていると訴える患者
- 疾病が進行中なのに治療をやめてしまう患者

具体的に言うと、

制酸薬による胃潰瘍の治療 効果についての臨床試験

- 参加者は、最初と最後(4週間後)に内視鏡検査を受診
- 二重盲検法で、半数の患者に制酸薬、残りに偽薬を投与
- 検査結果
 - 制酸薬を投与したグループにおける薬の効果はてきめん
 - 患者の訴える症状には、2つのグループに目立った違いがない
 - 胃潰瘍が完治しているのに、「痛みが続いている」と言う患者
 - 胃潰瘍に変化がないのに、「痛みがなくなった」と言う患者

(Peterson 1977)

概念を使った分析

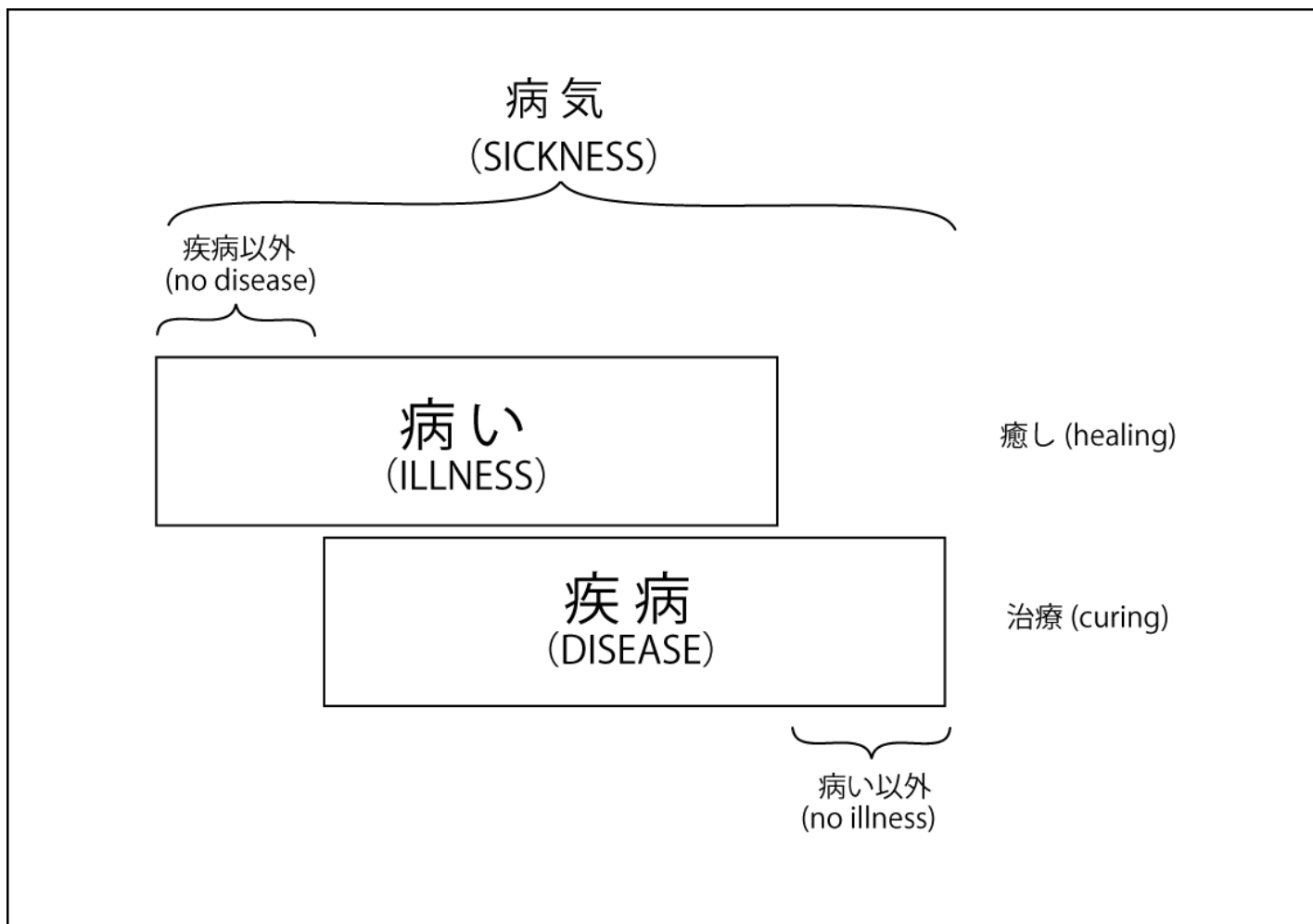
このような現象を、どうやって説明するか？

社会科学者は、疾病(disease)と病い(illness)の概念を、それぞれ定義して考えてみた。

疾病と病い

- 臨床医は、疾病を検査し、治療する。
 - 身体器官の構造と機能の変調
- 患者は、病いに苦しむ。
 - 身体とこころの不調や社会的な機能不全

疾病と病い



(from Young 1982)

制酸薬による胃潰瘍の治療 効果についてのテスト

- 参加者は、最初と最後(4週間後)に内視鏡検査を受診
- 二重盲検法で、半数の患者に制酸薬、残りに偽薬を投与
- 検査結果
 - 制酸薬を投与したグループにおける薬の効果はてきめん
 - 症状の点では、2つのグループに目立った違いが全くない
 - 胃潰瘍が完治しているのに、「痛みが続いている」と言う患者
 - 胃潰瘍に変化がないのに、「痛みがなくなった」と言う患者

(Peterson 1977)

ERIC CASSELL (1976)

**病いは、患者が医者に会いに行く
ときに感じるもので、疾病は、患者
がその帰り道に感じているものだ。**